

2021年度

さかい福祉と介護の 実践発表会

令和3年12月11日(土)

オンライン開催

主 催

堺市・関西大学・堺市老人福祉施設部会

後 援

大阪府社会福祉協議会・堺市社会福祉協議会

2021年度 さかい福祉と介護の実践発表会 プログラム

令和3年12月11日(土)
オンライン開催

第1部 (13:00-13:30)

ご挨拶

堺市健康福祉局 局長 山本 甚郎

堺市老人福祉施設部会 会長 西尾 正敏

令和3年度堺市働きやすく魅力あふれる介護事業所等表彰 表彰式
(令和3年11月18日(木)実施)

【事業所表彰】

法人名	事業所名
社会福祉法人 頌徳福祉会	介護老人福祉施設 ソルメゾン
社会福祉法人 堺福祉会	特別養護老人ホーム ハートピア堺
株式会社 ハートフルサンク	ハートフルサンク 桃山台
社会福祉法人 美木多園	特別養護老人ホーム 美樹の園
社会福祉法人 五常会	ケアハウス ゆーとりあ
社会福祉法人 五常会	特別養護老人ホーム ゆーとりあ
株式会社 リーどけあ	小規模多機能ホーム リーどけあ

第2部 (13:30-16:00)

講評:岡田 忠克 教授 (関西大学 人間健康学部 福祉と健康コース)

高齢分野

	法人名	発表者	演題名
演題1	社会医療法人 頌徳会 介護老人保健施設 ソルヴィラージュ	尾曾 薫	月60名リハ会議はじめました!
演題2	株式会社 ハートフルサンク ハートフルサンク デイ ひしき乃湯	土口 亮平	高齢者・障がい者の共存施設である 共生型DSでの取り組み、成功例
演題3	株式会社リハビリプラス 訪問看護ステーション リハビリプラス	増田 浩和 三山 晃平	訪問看護ステーションにおけるフットケアの展開
演題4	社会福祉法人 野田福祉会 特別養護老人ホーム ハーモニー	前川 宏美	楽しく食事をする為に
演題5	社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 榎塚荘	中尾 圭介 上原 米里奈	排泄のタイミングを分析し、 適切なケアと職員の負担軽減をめざす
演題6	社会福祉法人五常会 特別養護老人ホームゆーとりあ	坂下 綾菜 田口 未央奈	ユニットケアにおける科学的介護
演題7	社会福祉法人 頌徳福祉会 介護老人福祉施設 ソルメゾン	野口 美佐子	「ケアの統一のためのキャリア段位制度の導入」 ~同じものさしで測ったら「分かる」と「できる」がはっきり見えた!~
演題8	株式会社りーどけあ 小規模多機能ホーム りーどけあ	葉山 しおり 片岡 妙弥	リスクはリスクじゃない! 自立支援の考え方
演題9	社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人ホーム ハートピア堺	高井 美穂 富村 智栄 大塚 陽市	堺の街で元気になろう!
演題10	社会福祉法人 稲穂会 やすらぎの園 デイサービス	本田 優子	コロナに負けるな! ~利用者様の希望を一緒に叶える~
演題11	社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園	高塚 亜希子	「笑顔プロジェクト」フォトコンテスト

講 評

障害分野

	法人名	発表者	演題名
演題1	シャローム株式会社 やすらぎの介護シャローム 晴れる家	谷 和哉 中 埜 英雄	先天性難病による障害をもった対象N様の支援
演題2	社会福祉法人 堺あすなろ会 ピュアあすなろ	宮本 直貴 大仲 讓 奈 須 大輝	施設内での物品販売「ファミリーエイト」
演題3	社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 楽「あけぼの」	青木 崇大	心と体のリラクゼーションから 笑顔と活動を広げる
演題4	社会福祉法人 コスモス ジョブサポート風の彩	西 瀧 倫央	利用者の挑戦を共に歩む
演題5	NPO法人 ヘッドウェイさかい ヘッドウェイ堺	兵藤 美恵子	脳損傷の方に特化した生活介護で、 利用者の自主性に寄り添う
演題6	NPO法人 南大阪自立支援センター ともにーしょうりんじ	石野 英司	罪を犯した障がい者の社会復帰支援
演題7	株式会社inC インク	梶 兼	障害がある方の自己実現×地域の方のやりたいこと

講 評

目次

《高齢分野》

テーマ：リハビリ		
月60名リハ会議はじめました！		1
社会医療法人 頌徳会 介護老人保健施設 ソルヴィラージュ		
テーマ：交流		
高齢者・障がい者の共存施設である共生型DSでの取り組み、成功例		2
株式会社 ハートフルサンク ハートフルサンク デイ ひしき乃湯		
テーマ：地域との連携		
訪問看護ステーションにおけるフットケアの展開		3
株式会社リハビリプラス 訪問看護ステーション リハビリプラス		
テーマ：食事・栄養・口腔ケア		
楽しく食事をする為に		4
社会福祉法人 野田福祉会 特別養護老人ホーム ハーモニー		
テーマ：排泄・入浴ケア		
排泄のタイミングを分析し、適切なケアと職員の負担軽減をめざす		5
社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 榎塚荘		
テーマ：自立支援		
ユニットケアにおける科学的介護		6
社会福祉法人 五常会 特別養護老人ホーム ゆーとりあ		
テーマ：人材育成・OJT		
「ケアの統一のためのキャリア段位制度の導入」		7
～同じものさしで測ったら「分かる」と「できる」がはっきり見えた!～		
社会福祉法人 頌徳福祉会 介護老人福祉施設 ソルメゾン		
テーマ：認知症ケア・自立支援・社会（地域）貢献		
リスクはリスクじゃない！自立支援の考え方		8
株式会社リーどけあ 小規模多機能ホーム リーどけあ		
テーマ：認知症ケア・自立支援・地域との連携		
堺の街で元気になろう！		9
社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人ホーム ハートピア堺		
テーマ：認知症ケア		
コロナに負けるな！～利用者様の希望を一緒に叶える～		10
社会福祉法人 稲穂会 やすらぎの園 デイサービス		
テーマ：職員のモチベーションアップ		
「笑顔プロジェクト」フォトコンテスト		11
社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園		

《障害分野》

テーマ：利用者の社会参加への支援

先天性難病による障害をもった対象N様の支援 13
シャローム株式会社 やすらぎの介護シャローム 晴れる家

テーマ：施設内での物品販売

施設内での物品販売「ファミリーエイト」 15
社会福祉法人 堺あすなる会 ピュアあすなる

テーマ：入浴とリハビリテーション

心と体のリラクゼーションから笑顔と活動を広げる 16
社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 楽「あけぼの」

テーマ：就労への支援

利用者の挑戦を共に歩む 17
社会福祉法人 コスモス ジョブサポート風の彩

テーマ：自立の支援

脳損傷の方に特化した生活介護で、利用者の自主性に寄り添う 18
NPO法人 ヘッドウェイさかい ヘッドウェイ堺

テーマ：地域との連携

罪を犯した障がい者の社会復帰支援 19
NPO法人 南大阪自立支援センター とともにーしょうりんじ

テーマ：地域との連携

障害がある方の自己実現×地域の方のやりたいコト 20
株式会社inC インク

《高齡分野》

テーマ：リハビリ

月60名リハ会議はじめました！

社会医療法人 頌徳会 介護老人保健施設 ソルヴィラージュ
理学療法士：尾曾 薫

●事業所紹介

通所リハビリテーション（デイケア）介護老人保健施設（入所：75室（150床））
短期入所療養介護（ショートステイ）その他各種介護相談
※対象者：要介護認定（1～5）を受けられた方

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

『やりたい』を叶えるためには心身の課題など多く考えられる。課題を解決するにあたり、『やりたい』人のことをよく知り、どうしたらできるか？という視点で、課題について仲間（多職種）と話し合うことが重要である。ソルヴィラージュではご利用者の、その『やりたい』を叶えるためにリハ会議をうまく活用している。あるご利用者の『もう年だから難しいとは思っているけど…眼鏡を作成するために眼科に行きたい。階段が昇り降りできるようになりたい。』という希望を叶えた事例について、具体的な課題解決の方法を発表する。

【具体的な取り組み】

ソルヴィラージュでは令和3年4月から通所リハのご利用者全員に対してリハ会議を実施している（毎月60件！）。通所リハ利用前に自宅へ訪問し、ご本人やご家族の思いを聴く。その内容を多職種で情報を共有し、目標設定を行い、定期的にリハ会議での状況報告と目標の見直しなどを行う。通所リハでの動作練習を経て、再度自宅訪問を行い、実際の環境でご家族や介護士への介助指導を行い、目標を達成する。さらには、通所リハの送迎方法を介護士介助のもと階段昇降を行う方法へと変更し、ご家族とともに外出する機会の他にも階段昇降をする機会を作り、目標達成を維持できるように取り組んだ。

【活動の成果と評価】

ご家族の介助のもと階段昇降ができるようになった。介護負担が軽減し、外出する頻度や活動範囲が広がった（眼鏡を作成するために眼科に行くことができるようになり、散歩を楽しむこともできるようになった）。初めは「もう年だからできない…」などと気持ちが落ち込んで、運動に対しても消極的であったが、目標を達成したことにより「次は家の中を自由に歩けるようになりたい！」と気持ちが前向きになり、意欲的に運動や活動に参加されるようになった。

【今後の課題】

リハ会議や自宅訪問は非常に有用ではあるが、設備・人員（人財育成）・時間の確保が課題である。ソルヴィラージュではリハ会議について優先的に調整し、月60件の実施が行えているが、自宅訪問については人員確保や調整が難しく、Aさんの様に短期間に何度も実施することが難しい現状である。今後、自宅訪問においてもICTを活用して多職種で連携して柔軟に行えると良いと考える。

【参考資料など】

- ・介護老人保健施設ソルヴィラージュ 通所リハ（デイケア）についてはホームページをご覧ください。

テーマ：交流

高齢者・障がい者の共存施設である 共生型DSでの取り組み、成功例

株式会社 ハートフルサンク ハートフルサンク デイ ひしき乃湯
サビ管、介護職：土口 亮平

●事業所紹介

主体的、自立を目的とした高齢者のみのデイサービスでしたが、平成31年から高齢者と児童、世代や障がいに囚われない交流をめざした共生型デイサービスを開始しました。特徴的な点として、昼食の調理は利用者様と職員が一緒になって準備を実施することです。お米を砥いだり、包丁で野菜を切ったり等、“危ない”“怪我をする”等の理由でご自宅では敬遠されがちで実施できないことを積極的に取り組んでもらうことをご利用者様の主体性を尊重し自由に過ごしていただける環境を提供させていただいています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

共生型デイならではの多種多様な異年齢交流における相乗効果。

【具体的な取り組み】

日中は年齢や障がいに関係なく、同じフロアにて過ごしていただいています。昼食の準備やレクリエーションにおいてもみんな一緒に活動を共にしています。その中でお互いの相乗効果を高められるような交流環境を構築し、提供できるよう取り組みました。

【活動の成果と評価】

障がい者福祉で来所されている方にとっては、調理経験豊富な高齢者様から最適な調理方法を教えてもらったり、反対に高齢者福祉で来所されている方にとっては、力が必要な仕事やケータイ電話の使い方等を教えてもらったりと、お互いの苦手要素をカバーした交流がみられました。また、児童が来所することで、高齢者様の表情が豊かになったり、児童にとっては『挨拶』『言葉遣い』といった『礼儀』を身につける環境が構築されていました。

【今後の課題】

- ・利用者間同士の意思疎通
- ・児童にとっての空間確保

テーマ：地域との連携

訪問看護ステーションにおけるフットケアの展開

株式会社リハビリプラス 訪問看護ステーション リハビリプラス
作業療法士：増田 浩和／看護師：三山 晃平

●事業所紹介

当事業所は、「新しい自分 新しい世界 リハビリテーションをプラスする」想いで運営している。その取り組みの一つとして、ナーシングフットケア&ネイルケアを展開している。理学療法士等によるリハビリテーションと看護師による定期的なフットケア・ネイルケアの組み合わせで健康寿命延伸にチャレンジしています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

足部のトラブル（巻爪や外反母趾）は、悪化すると激痛があるため、急激に高齢者の自立した生活を奪い、孤立へと追いやってしまう。そのため、足のトラブルに対する予防と、軽度な足のトラブルが重症化しない看護ケアが重要である。

【具体的な取り組み】

1. 近商ストア株式会社とタイアップし商業施設でのフットケアイベントの開催（2019年10月）。コロナ禍のため、その後中止。
2. フットケアクリームの自社開発。
3. フットケアのリーフレットを作成し、介護事業者へ啓発活動を実施。
4. 訪問看護ステーションにおける看護師のフットケアサービスの開発および実施。

【活動の成果と評価】

1. 2日間で43名が参加。全ての参加者に足部のトラブルがあり、改善策を施したり提供することで喜んでもらった。
2. 訪問看護やフットケアイベントでクリームを塗布し、足部のトラブルの改善ができ好評を得ている。
3. フットケアの依頼が増加している。フットケア・ネイルケアの必要性が認知され始めた。

【今後の課題】

1. フットケアイベントの再開（コロナの状況を鑑みて判断する）。
2. 訪問看護ステーションにおけるフットケア・ネイルケアの実績をまとめ論文発表する。
3. 地域に向けた啓発活動の推進。

【参考資料など】

<https://www.rehabili-plus.com/footcare/>

テーマ：食事・栄養・口腔ケア

楽しく食事をする為に

社会福祉法人 野田福祉会 特別養護老人ホーム ハーモニー
介護職（フロアリーダー）：前川 宏美

●事業所紹介

特別養護老人ホーム ハーモニー／ハーモニー診療所／ハーモニーデイサービスセンター
ハーモニーヘルパーステーション／ケアハウス「ハーモニーコート」
グループホーム「ハーモニープラザ」／グループホーム「ハーモニー美木多」
東第2地域包括支援センター／ハーモニーケアプランセンター

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- 食事の環境作り
- 食事量の変化

【具体的な取り組み】

○入所者にとって食事をする事は、必要な栄養を摂取するためだけではなく、生きがいや生活リズムを感じるためにも重要な役割を担っています。その為にも、食前に職員による嚥下体操、発語が困難な方に対してアイスマッサージを行い、だ液の分泌を促す。また食事量の変化等のある方に対して、月1回栄養士・看護師・介護士と共に入所者一人一人の栄養状態について話し合い会議を行っています。

【活動の成果と評価】

- 食事時には一旦テレビを消して、音楽を流す。(ヒーリングミュージック・童謡・唱歌・歌謡曲等) 穏やかな曲の時は、食事に集中されている方が多数いました。また、童謡や唱歌の曲の時に、食事に集中できず音楽と共に口ずさむ方もおられました。
- 栄養ケア会議にて、食事関係について随時検討行う。

【今後の課題】

- 音楽の曲を増やす。(季節に合った曲を流す。)
- 嗜好調査を行い、食事メニューに反映させる。
- 季節の行事レク(四季折々の料理レク)を積極的に行う。
- 栄養士・看護師に引き続き話し合いを行い、随時検討する。

テーマ：排泄・入浴ケア

排泄のタイミングを分析し、 適切なケアと職員の負担軽減をめざす

社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 槇塚荘
介護職：中尾 圭介／介護職：上原 栄里奈

●事業所紹介

槇塚荘は入居73人、ショートステイ10人の計83人定員です。緑豊かな丘の上に位置し、居室からの風景がとても爽やかです。デイサービスや包括支援センター等を併設し、地域の方に安心していただける施設をめざしています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

今までは、意思疎通が困難な方に対するパット交換時間の決め方は、排泄の記録と職員の経験や勘を頼りにしてきた。失禁の記録が多くなればパットの大きさを変えたり、介助の時間を見直すなどの対策をしてきたが、曖昧な点も多く分析できているという実感が少なかった。パット交換を行っても排尿が無いこともあるし、タイミングがずれると失禁して全衣類交換になったりと、職員の負担も大きかった。

【具体的な取り組み】

人体に安全な超音波による膀胱観察ができる『DFree』という福祉機器を導入。膀胱内の尿のたまり具合を担当者2人で2週間データー分析を行った。『DFree』が教えてくれる「そろそろ通知」や「出たかも通知」は不安定な時間帯もあり、1週目はデーターを集めることと尿測することに集中した。2週目には現場職員が行うパット交換時間と照らし合わせて、必要のないパット交換を削り、ずれているところの時間修正を行い、データーを分析した。

【活動の成果と評価】

膀胱内の尿のたまり具合を超音波で測るという科学的な観測と分析ができるため、データー収集に対する職員のモチベーションはとても高かった。パット交換をすれば排尿があったので疑問もなく行ってきたが、分析した結果、その排尿は前回パット交換を行った直後にパット内に出たものであることが判明し、ズレを修正することができた。尿測をしようとしている日に限って下剤が投与されて不可能だったり、結果分析まで時間はかかった。

【今後の課題】

『DFree』の分析を行うには平均値を出すのに一人あたり約2週間は必要とするが、特に意思疎通が困難な方の排泄のタイミングを知り、出来るだけ快適に過ごして頂けるように今後も取り組んでいきたい。分析を行ったことで『チョロチョロと出ているが離床の動作で大量に出ている』とか、『そろそろ通知』でパット交換に行ったら側臥位にすると高確率で排尿がある、などのことが分かる方もいた。その方の排尿のクセを共有していきたい。

【参考資料など】

トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社 DFree操作手順書

テーマ：自立支援

ユニットケアにおける科学的介護

社会福祉法人 五常会 特別養護老人ホーム ゆーとりあ
介護職員：坂下 綾菜／介護職員：田口 未央奈

●事業所紹介

平成27年4月開設のユニット型特別養護老人ホームです。法人理念「一人ひとりの思いを暮らしに映す」の実現に向けて、ユニットケアの理念やシステム、環境を活かした介護を実践しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

今年度の介護報酬改定に伴い、介護保険システムやユニットケアのシステム、ICT、LIFE等を活用し、科学的データに基づいた介護を実践することにより、法人理念や介護方針の実現、ご入居者の自立支援、尊厳ある暮らし、QOL向上、ADL向上等をめざす。

【具体的な取り組み】

ケアプランを大幅に見直し、法人理念・介護方針を実現するためにそれぞれの目標をより具体的に明確に示すようにした。また、その内容を24Hシートに連動させ、日々のケアにおいて関わる全職員、全職種が統一して実践し、その時々のご様子をリアルタイムで記録に残すようにした。より記録が効率よく入力できるようにタブレット端末を携行し業務の合間に速やかに入力することとした。3ヶ月ごとのカンファレンスにあたって、介護保険システム上に個々の評価を入力し、その内容を基にケアプランと24Hシートを見直すこととした。

【活動の成果と評価】

日々のケアの根拠や実践状況について、システム上で誰でも情報共有することができることで、職員個々の経験則によるものでなく、根拠とともに統一した介護を共通した目的意識をもって実践することができるようになった。また、ケアの成果についてもシステム上で定期的に評価・即時共有でき、再プランニングに直結することで、介護職員が主となってPDCAサイクルを回すことができるようになった。介護職員においてはADL評価、自立支援介護への意欲と関心が高まり、暮らしの中で「できることを減らさない」取り組みをより重視するようになった。

【今後の課題】

特別養護老人ホームにおける自立支援においては、尊厳の保持、意思の尊重、意欲の向上等、QOLの向上への取り組みは図れても、ADL向上については現実として困難な場合が多い。今後は残存機能の維持・向上をより明確に具体的にめざし、実際にADLを向上していくことで生活の幅を拡げ「あたりまえの暮らし」「おもいおみの暮らし」の実現を通じ、さらなるQOL向上に繋がられるよう、多職種チームで取り組んでいきたい。

テーマ：人材育成・OJT

「ケアの統一のためのキャリア段位制度の導入」 ～同じものさしで測ったら「分かる」と「できる」がはっきり見えた!～

社会福祉法人 頌徳福祉会 介護老人福祉施設 ソルメゾン
介護課 課長代理：野口 美佐子

●事業所紹介

- ・介護老人福祉施設（全室個室ユニット型）：80床
- ・短期入所生活介護：20床
- ・通所介護・介護予防通所介護：定員50名

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

新人教育時、人によって教え方が違い、教育担当者も新入職員にも不安があった。そこでケアを統一するため、キャリア段位制度を導入することにした。

【具体的な取り組み】

まず、キャリア段位制度を導入するにあたり、ケアの基準書と教育担当者用のチェックポイントの資料を作成した。次に、全職員向けに説明会を行い、今後新人職員教育時にキャリア段位制度を導入すること、既存職員についても順次レベル認定を行う旨周知した。その後、教育担当者は新入職者にケアの基準書を用いた指導を行い、最終段階でアセッサーが評価を行った。アセッサーは教育担当者や新入職員と定期的に面談を行い、実施した基準書を見直し振り返りを行った。

【活動の成果と評価】

新入職職員も既存職員も、わかることとできることが明確になり、介護に対して真剣に考えるようになった。また教育担当者は、経験年数に関係なく根拠を説明することで、迷いなく自信を持って指導できるようになり、適切に評価を行うことができた。

【今後の課題】

キャリア段位制度を継続して実施することで、人材育成・定着を目指し、ケアの質の向上に取り組みたい。しかし、レベル認定実施において、レベル認定対象の既存職員（被評価者）とアセッサー（評価者）のシフトを合わせることが難しく、日々、調整しながら行ったため、評価実施に日数がかかった。現在、3フロア各1名ずつのレベル認定を行ったが、今後、さらにレベル認定者を増やしていきたい。

テーマ：認知症ケア・自立支援・社会（地域）貢献

リスクはリスクじゃない！自立支援の考え方

株式会社 りーどけあ 小規模多機能ホーム りーどけあ
看護師：葉山 しおり／介護士：片岡 妙弥

●事業所紹介

「日常を非日常にしないケアを追求する」という理念の基に、2019年6月に中区平井に小規模多機能型居宅介護（定員24名、通い12名、宿泊4名）を開設しました。利用者に関わりを持っていただき、作業や空間を通じて自立支援や社会参加が行えるようにケアを行っています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

加齢や認知症、その他の疾病で徐々に出来ない事が多くなり、周囲からも危険だと言われ、制限される事で徐々に自信や活動性が低下している利用者が多い。当事業所では、個々にアセスメントを行い、利用者が今まで行なってきたことや行いたいことに対してサポートしていく中で、これまでの経験やその人らしい生き方を取り戻し、より自立支援や社会参加につながるケアに取り組んだ。

【具体的な取り組み】

通いや訪問、泊まりをなじみある職員が行う中で、きめ細かく生活に寄り添い、24時間の情報共有を行った。仕事や趣味で畑仕事、家事など、今まで当然のようにやっていた生活の一部を利用者が行い、役割を持てるようにアプローチした。鍬やスコップで畑を耕すこと、包丁を使い食事やおやつを作り、裁縫やアイロンなど利用者に行なってもらった。また、事業所の出入口を施錠しない、立ち上がっても外に出ても制止しない、逆にやりたくないことはやらなくていいという強制しない自由な空間作りを提供した。

【活動の成果と評価】

はじめはスタッフと利用者の1:1でのやりとりを行なっているうちに、近くに居る利用者から「私もやってみたい」、外に畑仕事に行くなら「私も一緒に行きたい」という利用者間で相互的なコミュニティが形成された。また、昨年に続き介護保険更新における認定で、維持が6名、改善が4名、悪化が0名であった。客観的指標でも改善していることで、自分たちが行なってケアに対して自信が付き、モチベーションが向上された。

【今後の課題】

事業所内では、多くの事ができるようになり、今まで自宅等でしていなかったことに対して、挑戦される利用者が多くなってきた。しかし、事業所内ではできるが、自宅ではできない（やらない）。家族からは「りーどけあに行っている時は表情がイキイキしている」、「こんな事がまだできたんですね。」と言われることも少なくない。そのため、小規模多機能型居宅介護の特性を活かし、事業所内でできていることを自宅や地域でもできるようにサポートを続けていきたい。

【参考資料など】

筧 裕介，（2021年），『認知症世界の歩き方』，株式会社ライツ社

テーマ：認知症ケア・自立支援・地域との連携

堺の街で元気になろう！

社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人ホーム ハートピア堺
介護福祉士：高井 美穂／看護師：富村 智栄／介護福祉士：豕瀬 陽市

●事業所紹介

学校をテーマとして認知症ケアを実践しているデイサービス「学び舎」を行っています。学び舎では「授業」「お当番」「委員会」と、皆様に活動内容を考える「学級会」を行い、ご利用者はそれぞれの役割のもと自分らしさを発揮されています。またQC活動の1つである地域活動委員会では、ご利用者の馴染みの暮らしをつなぐために堺の資源を活用し地域とつながる活動を施設全体で展開しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

コロナ禍において制限のある暮らしの中、少しでも楽しみを見つけるために、地域資源を生かした活動ができるように工夫した。

【具体的な取り組み】

「若い時に仕事で携わった阪堺電車に乗りたい。」「堺の老舗の和菓子が食べたい」「阿波踊りがしたい」「包丁研ぎをして人の役に立ちたい」「夜景が見たい」等ご利用者の思いを聞きました。阪堺電車は感染予防の為、車両を貸し切りしました。和菓子では堺の老舗店に協力していただきリモートで中継を許可していただき、お店の雰囲気を感じながら舌鼓を打ちました。阿波踊りでは徳島出身の大学生と徳島県物産協会様に協力していただきました。包丁研ぎでは包丁を研ぐ活動の場を作りました。クリスマスイルミネーションを見るために大小路と大道筋に「堺イルミネーション2020」を見にいきました。

【活動の成果と評価】

何十年暮らしてきた堺の街の文化に触れることでご利用者の「足の動きが良い」「表情が明るい」「口数が増えた」等の良い変化があり、今を楽しむ、昔を思い出すそんな当たり前の事で元気になれると解りました。
コロナ禍で閉塞感があったスタッフも多く、ご利用者と一緒になって楽しんで取り組みました。ご利用者の笑顔を見て「企画して良かった。」と思いました。ご利用者の思いを大切にすることが重要だと実感できました。

【今後の課題】

要介護高齢者も楽しめる堺の街作り、若い人が手伝ってくれる仕組み作りが大切だと感じました。そのために堺浜の海釣り公園での釣り大会、体育館が取り組んでいるニュースポーツの道具の貸し出し、金岡公園の釣り堀、自転車タクシー等、堺の資源を使い学校や地域・子ども食堂と連携できる仕組みを作っていきたいです。

【参考資料など】

堺市HP

テーマ：認知症ケア

コロナに負けるな！～利用者様の希望を一緒に叶える～

社会福祉法人 稲穂会 やすらぎの園 デイサービス

相談員・介護士：本田 優子

●事業所紹介

平成29年、認知症介護研修を受けた法人職員が、習得した知識を施設内だけでなく、地域にも還元できないか考え、稲穂会オレンジプロジェクトが立ち上がる。構成メンバーは特養・デイサービス・特定・居宅・包括など法人各部署から集まり現在は22名で活動している。活動の具体的な内容は、認知症ケアの向上を目的とした研修、法人全職員対象とした認知症サポーター養成講座、認知症カフェや出張相談会の開催、地域で実施されている認知症サポーター養成講座への講師派遣のほか、平成30年からは「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」をテーマに認知症当事者や行政や地域の企業と協働して、認知症シンポジウムやリモート講演会等を行っている。施設内外を問わず『認知症になっても安心して生活できる社会づくり』をめざし活動している。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

昨年コロナウイルスにより施設内では面会が中止になり、会いたい家族とも会えない。外出できない。ボランティアの受け入れもなくなるなど、利用者様には大変苦しい時間を過ごしていただくこととなった。また、職員側も感染の不安から行事やレクリエーションも自粛傾向で、一緒に楽しむ・笑う時間も減ってしまったように感じていた。閉塞的な施設の中で、今一度利用者様のために何かできないか、コロナ禍でもできることはないかと、『利用者様の希望を一緒に叶える』ことを目的に「チャレンジ応援シート」の取り組みを始めた。

【具体的な取り組み】

対象は認知症高齢者、各部署でメンバー全員が対象者を選定し実践した。取り組みはチャレンジ応援シートに沿って、まずは対象者のやりたい事や希望を聞き取ることから始め、対象者に対し今できることの中で全員が何かしら実践する事ができた。取り組んだ内容はリモートを使って報告会で共有・意見交換を行うことにした。報告会では、外部から3名のゲスト（認知症当事者・大学教授・認知症介護指導者）に参加いただき、様々な立場からの感想や客観的な意見、率直な感想を聞く事ができ、より実のある報告会となった。

【活動の成果と評価】

取り組みの中では1人1人が対象の方に向き合い、関わる事での気づきや他の職員との協力体制を築く事ができた。報告会を行った事で参加したメンバー全員が伝える事の大切さを感じる事もできた。外部からの評価を受け、改めて認知症介護について、援助者の私たちがすべき事というものを考える機会となった。

【今後の課題】

今年度もコロナ渦で施設の様子は変わらない部分もある。また地域への取り組みも難しい中、チャレンジ応援シートを継続し、認知症の方が本当にしたい事や希望を実現するために一緒にチャレンジできる方法を考えていく。実現に向けて地域を巻き込み、協力を得ていく事が今後の課題と考える。

【参考資料など】

稲穂会オレンジプロジェクトfacebook:<https://www.facebook.com/inahokai.orangeproject>

テーマ：職員のモチベーションアップ

「笑顔プロジェクト」フォトコンテスト

社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園
介護職（フロア副主任）：高塚 亜希子

●事業所紹介

堺市の南部に位置し、泉北ニュータウンに隣接。湖畔に建ち四季の移り変わりが楽しめる自然豊かな環境です。特養・老健・グループホームの3施設があり、各施設で通所サービスとショートステイを行っています。
その他ケアプラン作成と、高齢者に住居をご用意する事業も実施しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

日々の業務の中でご利用者、職員ともに笑顔になれる楽しそうなことがしたい。
職員同士のコミュニケーションを増やすきっかけを作って、仕事に取り組むモチベーションアップにつなげたい。

【具体的な取り組み】

- ① 日常の業務の中で『いいな』と思ったご利用者の表情、情景を写真に収め、投稿してもらう。
- ② 休憩室でモニターに投稿作品を放映し、職員同士のコミュニケーションのきっかけをつくる。
- ③ フォトコンテスト応募作品を休憩室に貼り出して、職員間で投票する。
- ④ 1位～3位+特別賞に選ばれた作品と撮影者を発表、理事長から景品の贈呈。

【活動の成果と評価】

投稿写真126枚 応募者19名 投票者63名

- ・撮影そのものが職員とご利用者の関わりへの促進に繋がった。
- ・行事の際の撮影写真は多くあったが、日常生活の中の姿を収めた思い出が増えた。
- ・最終的に応募作品をご利用者の居室などに飾り、ご利用者から喜んでいただけた。
- ・コロナ禍の休憩室での会話は増やせなかったが、休憩室に笑顔写真が溢れて気持ちがほっこりした。
- ・発表は真面目な全体会議の後で行われ、珍景品とともに会場が盛り上がった。

現在フォトコンテスト第2弾を開催。「おうち時間」をテーマに募集中。

【今後の課題】

コロナ禍で職員同士の飲み会や交流が制限される中、職員同士の話題づくりに寄与して、職員の相互理解を生み、最終的には雰囲気の良い職場づくり、職員の定着を目標とした取り組みをしていきたい。以前に実施した「ありがとうカード」のように多くの職員が気軽に参加でき、最後に景品までもらえる、というようなワクワクできる企画を考えていきたい。

《障害分野》

テーマ：利用者の社会参加への支援

先天性難病による障害をもった対象N様の支援

シャローム株式会社 やすらぎの介護シャローム 晴れる家
生活相談員：谷 和哉／共生型生活介護の利用者：中埜 英雄

●事業所紹介

2008年12月に介護保険サービスの通所介護事業所として開設。110㎡のゆとりあるフロアで機能訓練を軸にサービスを展開。リフト浴や機械浴等の入浴設備も豊富で、どのような状態であってもご利用いただけます。そして2020年4月に共生型生活介護としても事業者登録。「交通事故で車いす生活になられた方からリハビリをして、自分でできることを増やしたい。ご家族から日中の対応に少し疲れてきた、入浴介助が大変。」などの相談を受け、何かできることはないかと考えたことがきっかけ。目的は、高齢者の方がリハビリにより生活機能の維持と向上をされるのと同様に、障害者の方にも生活機能の維持と向上ができる場所を提供すること、また目的を同じとする高齢者と障害者が共存できる空間を提供すること。掲げる理念は、「出会うすべての方々と共に喜び、やすらぎ、希望を分かち合える幸福な社会作り。利用者と家族の絆が深まることを願う。地域の様々な社会資源を結び合わせ、みんながわくわくする空間を作る。」

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- A. 相談支援専門員と連携しつつ、アセスメント実施。本人の希望・通所の利用目的が何かを把握すること。
- B. 本人の疾患の特性を理解しつつ、無理なく通い続けることができ、生活の質が向上すること。
- C. 本人の希望の実現を一緒にめざすこと。

【具体的な取り組み】

- ①相談支援専門員と密に連絡を取り合いアセスメントを実施した。また生活相談員自らが自宅までの送迎を継続してコミュニケーションの時間をつくり、本人の性格や趣味をヒヤリングした。そこから本人の希望やニーズの把握に努めた。
- ②本人の疾患について調べ、生活上の課題を洗い出した。長時間の外出や車いすが負担であることから、通所の提供時間を調整した。
- ③機能訓練では、膝の曲げ伸ばしとプッシュ、背中から肩にかけてのもみほぐしを継続して実施した。
- ④障害スポーツ（ボッチャ）への参加意欲があるということで、大会の出場を目標に掲げた。ともに資料を集め、事業所でも練習できるように疑似的なボール等の準備をした。サービス利用中に疑似的なセットでの練習の時間を設けた。

【活動の成果と評価】

- ①相談支援専門員と生活相談員とで連携して効果的にアセスメントが実施でき、目標設定ができた。送迎車両でのコミュニケーションも捗り、書面上では見えてこなかった、より詳しい情報を得ることができた。
- ②疾患により、利用以前は体調面の不安が強く、多くの時間を自宅で過ごされていたが、本人に適した提供時間を組み支援計画を考案したことで、定期的な通所が継続できるようになった。

- ③できる範囲での機能訓練を実施することで、休むことなく通所継続ができ、車いすでの座位保持の負担を和らげることができた。また膝の可動域の確保と筋力の維持・向上ができ、健康面での不安を和らげることができた。
- ④現時点ではコロナ禍のため具体的な社会的活動への参加はできずだが、本人のほうでも情報収集に努めていただき、通所する際には資料を持参していただくことができた。また、サービス内で疑似的なセットでの練習時間を設けることで、同時に職員も巻き込むことができ、公式練習や大会に臨むチームメンバーの編成も進めることができた。

【今後の課題】

疾患への留意により、長時間の活動や過度な運動はなるべく避けたい。目標に挑戦するにあたり、できる範囲での機能訓練や支援が必要である。理学療法的な介入は控えているが、残存機能低下予防の目的で作業療法的な取組みを幅広く検討していきたい。また練習活動や大会出場等の具体的な行動に際して、活動場所や対象者の移動手段の検討を重ねる必要性がある。また、共生型の取組みとして、ぜひ高齢者の方々にも障害スポーツに触れていただく機会をつくり、今後の活動の共有や応援体制をつくっていききたい。

【参考資料など】

<https://www.nanbyou.or.jp/entry/4564>（難病情報センターHPより）

<http://www.sakai-kfp.info/>（堺市立健康福祉プラザHP）

<http://fukspo.org/nagaissc/>（大阪市長居障がい者スポーツセンターHP）

テーマ：施設内での物品販売

施設内での物品販売「ファミリーエイト」

社会福祉法人 堺あすなろ会 ピュアあすなろ

生活支援員：宮本 直貴／副施設長：大仲 譲／生活支援員：奈須 大輝

●事業所紹介

当施設は男性利用者33名、女性利用者17名、計50名が入所している障がい者支援施設です。自然豊かな環境に立地しています。個々に合わせた取り組みを模索し、より豊かで潤いある生活をめざしています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

当施設では、以前から利用者が買い物に行く機会が一般の人と比べ少ないと感じており、また移動・移乗の難しい重度の障害を持っている利用者や、意思表示の難しい利用者が特に買い物に行く機会が少ないと感じている。そこで施設内で物品販売をすることで、多くの利用者が気楽に買い物ができるのではないかと思い、施設内で物品販売の取り組みを始める。

【具体的な取り組み】

毎週日曜日の14:00～15:00の1時間、物品販売を行う。レジに職員1名、利用者の誘導に3名ほど職員が付いている。利用者が利用される際、職員が商品を選択するのではなく、利用者自身で選択できるように支援し、極力利用者自身で金銭のやり取りができるようにも支援している。施設内の利用者は糖尿病や高血圧、高脂血症等、持病を持っている方が複数名いるため、利用者の担当職員にお菓子やジュースの販売をするにあたって気を付けて欲しい点等を確認し、高カロリーなお菓子だけでなく、低カロリーの商品や塩分の少ない商品等も販売している。またボールペンや眼鏡・ミニカー等、利用者の好きな物や興味の持てそうな商品も販売している。

【活動の成果と評価】

重度の利用者や意思表示の難しい利用者等、多くの利用者が利用できている。商品を買に行ける機会が増え、物品販売の日を楽しみとする利用者も多く見られている。

【今後の課題】

今後、本当のコンビニのように販売する商品の幅を増やして、利用者の更なる楽しみ・いきがいを感じられるようなお店になるよう取り組む。

テーマ：入浴とリハビリテーション

心と体のリラクゼーションから笑顔と活動を広げる

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 楽「あけぼの」

理学療法士：青木 崇大

●事業所紹介

生活介護事業所である楽「あけぼの」は、入浴とリハビリテーションを主としてサービスの提供を行っています。18歳から62歳までの身体やコミュニケーションに障がいのあるご利用者に対して、身体状況に合わせた入浴を行い、様々な機器を使用した個別リハビリや、体を動かす活動的レクリエーションを中心に実施しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

特別支援学校卒業後に環境変化に伴う精神機能の変化や体重の増減、身体を触れられることの減少等があり、身体が固くなったり、立つことや歩くこと、移乗動作などに介助量が増えたとの意見も聞かれ、ご家族の介護負担の増加が課題でありました。そこで、楽「あけぼの」を開設し、機能低下予防と家族介護負担軽減を目的に入浴とリハビリテーションの提供を行い、心と体のリラクゼーションから活動に繋げて身体機能の維持・向上を図りました。

【具体的な取り組み】

- リラックス・くつろぐ：心地よく運動を受け入れるために緊張した心と体を解きほぐし、ストレッチやリラクゼーション、ポジショニングを行います。
- エンジョイ・楽しむ：解きほぐされた心と体は、笑顔が出やすくなり、様々な刺激に対して楽しむことができるようになります。
- アクティブ・活動：活動的レクリエーションによって、自分で動きたい気持ちが表出され、能動的に体の動きが出てきます。
- 心地よい入浴：体の機能に応じて座った姿勢で入れる座浴や寝た状態で入れる寝浴、歩いて入ることができる一般浴があり、どんな重い障がいがあっても気持ちの良い入浴を行うことができます。

【活動の成果と評価】

- ・体の筋緊張が緩み柔らかくなったことで動きやすくなり、日常の介助量が軽減されます。
- ・「できること」から自らすすんで行う「したいこと」になってきており、ご利用者からは、「今日はこの運動をする、これがしたい」という声もあり、モチベーションが向上して楽しく運動を行うことができます。
- ・法人内の他事業所において、連携を図ることで他事業所でも介助が楽になり、姿勢が整うことで食事でのむせ込みが減少するご利用者もおられました。

【今後の課題】

- ・「できる」から「したい」の定着は現在進行形で取り組んでおり、「日常のできる」にするためには、家族や支援者による環境調整も必要であると考えます。

【参考資料など】

国立精神神経医療研究センター、イラストでわかる小児理学療法、堺支援学校資料、二次障がいの特徴と医療的な治療、リハビリの夜、CLINICAL REHABILITATION、発達障害児の新しい療育

テーマ：就労への支援

利用者の挑戦を共に歩む

社会福祉法人 コスモス ジョブサポート風の彩
支援員：西瀧 倫央

●事業所紹介

ジョブサポート風の彩は、就労継続支援B型事業として森のキッチン、大浜体育館、南部青果、就労移行支援事業としてジョブサポート、就労定着支援事業の3つの事業を行っています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

利用者が社会に出て働き、高い工賃を得ることで、仕事・生活に夢や憧れを持つことができるように、そして企業・行政と共に事業を進めることで、社会が持つ障害者観を変え、新たな働く場所を創出していく。

【具体的な取り組み】

「もっと働きたい」「高い工賃がほしい」 そんな利用者のねがいを実現するため、2015年に堺市役所B1Fで森のキッチンをオープンしました。森のキッチンでは現在10名の利用者が調理・接客業を行っています。また2021年4月からは大浜体育館の清掃事業がスタートし、現在5名の利用者が事業に携わっています。作業所よりも工賃が高く、企業やたくさんのお客様と関わることで、自らの仕事に誇りを持ち、「就職したい」「企業で働きたい」という憧れを育てています。

【活動の成果と評価】

社会の中で働くことで、必要とされていること・自分の役割があることを実感し、そのことが働くことへのモチベーションや責任感にもつながっています。また、企業やたくさんのお客様と関わることで、「就職したい」という目標を持ち、森のキッチンから3名の利用者が就職しました。高い工賃を得ること、就職することは、同じ施設の利用者はもちろん、法人内の利用者の憧れにもなっています。

【今後の課題】

森のキッチン、大浜体育館の平均工賃は約30,000円で、大阪府の就労継続支援B型の平均工賃の約2.5倍ですが、30,000円と障害者年金だけでは、自立した生活を送ることは難しい。利用者が地域で安心して、自立した生活を送るためには、更なる工賃アップの手立てを考える必要があります。また、障害者雇用を行っている企業が少なく、受け入れる企業の開拓も行っていく必要があります。

テーマ：自立の支援

脳損傷の方に特化した生活介護で、 利用者の自主性に寄り添う

NPO法人 ヘッドウェイさかい ヘッドウェイ堺
施設長・看護師：兵藤 美恵子

●事業所紹介

2017年6月 重度脳損傷・高次脳機能障害の方の通所施設として、定員20名でスタートする。
身体・認知機能訓練・音楽療法・創作活動を主として、本人の自立の機会を支援している。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

高次脳機能障害は、脳が傷ついてうまく機能しなくなるため、外見上わかりにくく「見えない障害」と言われており、1人1人障害の特性が違う。そのため、個人を尊重しながら、どのようにして自主性を引き上げ 発揮できたかその取り組みについて、発表する。

【具体的な取り組み】

ヘッドウェイ堺の基本方針に沿って、スタッフが目指している支援方法を皆で共有、実践した。主に、ミーティングを通し情報交換を行い、スタッフ間で統一していった。利用者（メンバー）は毎日目標を掲げて1日のプログラムを過ごしてもらう。1日を通してメンバーが力を入れているリハビリや取り組んだ内容とスタッフの姿勢についても検証する。

【活動の成果と評価】

メンバー1人1人が、頑張っている点や役割についてアンケートをとった。
9割以上が自主的に取り組んでいる運動（30～40分）に対して、自己評価が高い。
次に意欲を持てる事 ①絵を描くこと・4割 ②音楽・2割 ③好きな事ができる・2割（手芸や折り紙） ④役割がある・1割 また、仲間の頑張りに賞賛できることに 回答9割を占めた。
スタッフについては、ミーティングで共有して、90%実行できており、メンバーへの自主性に積極的に取り組めた。

【今後の課題】

メンバー同士が相手の障害について理解をしていないため、悪い所に目が行くこともあり、苦手な人・嫌いな人と捉える人がいる。
頑張っているメンバー同士、お互いをもっと深く理解しあえるように対策を考えていくことが今後の課題である。

【参考資料など】

なるほど高次脳機能障害 監修 橋本圭司

テーマ：地域との連携

罪を犯した障がい者の社会復帰支援

NPO法人 南大阪自立支援センター ともに一しょうりんじ

職業指導員、相談員：石野 英司

●事業所紹介

堺区で就労継続支援A/B型(多機能型)事業所で貸おしぼり・リネンサプライ業の仕事を受託しています。作業内容は就労継続支援A型では主に洗濯業務をしております。就労継続支援B型ではおしぼり包装業務やリネンなどをたたみ仕上げ・リネンバックに入れ梱包する作業や施設外就労でマンション清掃業務を行っています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

刑務所に服役されている方たちの中で何等かの障害がある人が約4割いると言われています。出所後にまた再犯を犯して刑務所へ戻る人も少なくはありません。僅かなお金を所持し仕事もない、帰る所もなく相談できる人さえもない、そんな状態でまた罪を犯しては刑務所へ帰る、刑務所が安全で暮らしやすい。そんな負の連鎖になっていることを多くの人に知ってもらい、社会全体で考えていただければと思います。

【具体的な取り組み】

弊社では課題がある方が多く、罪の意識もなく犯罪に手を染める人たちがいます。そんな人たちは居場所がなく相談する人や頼る人もいません。このような人を救いたい思いで10数年前から障害福祉サービスを通して働く意味や社会参加を目的として活動しています。そんな中、大阪保護観察所や地域生活定着支援センター・弁護士会などから相談を受け調整の手伝いをしています。また、刑務所や少年院に出向き面談を行い環境調整の手伝いをする中で課題も多くみられます。帰住調整がスムーズに行えず堺市外の知り合いや時には地方の知り合いにお願いすることもあります。そんな事もあったので弊社でグループホームを立ち上げて現在4名が暮らしています。

【活動の成果と評価】

現在当法人では触法障がい者が14名(B型)、1名(A型) 健常者1名が社会復帰しています。これまでに30名以上の調整や協力雇用主として受け入れていますが課題も多いながら、保護観察所や定着センターと連携して受け入れ先の環境調整や帰住調整を行っております。また、ソーシャルファームとして活動を行い色々な所で講演活動やPRをしています。

【今後の課題】

昨今、受刑者の中で障害の疑いがあるという人は約40%前後だと言われています。また、高齢受刑者も右肩上がりに増えていますがその多くの方は仕事や帰る所がありません。そのような状態ではまた再犯してしまいます。中には帰る所がないので自ら罪を犯し刑務所に戻る方も少なくはありません。このような状況を1人でも多くの人たちに知っていただき、受け入れを考えていただければ幸いです。

テーマ：地域との連携

障害がある方の自己実現×地域の方のやりたいこと

株式会社inC インク

管理者：梶 兼

●事業所紹介

生活訓練事業所「インク」は、障害がある方へ今後の自分らしい暮らしと一緒に考え、自己実現に向けた様々な選択肢やプログラムを提供しています。インクの4つの柱：①自立に向けて“できそう”から“できる”に変えていくサポート②将来へのステップアップに向けての選択肢③自分と他者への理解を深める交流時間④新たな自分の発見や自信へとつなげる地域貢献活動。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

インクでは地域に住んでいる子どもから高齢者、障害のある方、それぞれが求める幸せを普段の暮らしの中で実感できる地域社会をつくりたいという法人理念があります。近隣地域の地域活動担い手の方々に困りごとややりたいことをお聞きすると、どうもインクの利用者が実現していきたいこととコラボができるのではないかと感じています。実例を通して、地域の方と障害のある方がつながっていきお互いの幅が広がる様子をお届けしたいと思います。

【具体的な取り組み】

- ・中区宮園校区の担い手の方との交流から生まれた、利用者の「動画制作」と「宮園展覧会における協力」
- ・子ども食堂「東深井つどいば食堂ふらっと」との交流から生まれた、子ども食堂活動×利用者による「子ども達への遊び場」のコラボ

【活動の成果と評価】

地域貢献活動を通じて、

- ・利用者がやりたいことの実現ができ、将来の目標が明確化された。また、自身の課題もやりたいことをしていくなかで、解消されていった。
- ・地域の方々の自分たちだけでは難しかったことやしたいことが、インクとのコラボによって実現できた
- ・地域の方々と利用者が活動を通して直接交流することで、障害理解も進み、お互いの信頼関係ができた。

【今後の課題】

障害があってもその人が活躍できる場は地域の中できっと沢山あるのだと思います。インクは微力ですし、インクだけでは活動の展開に限界があります。もっと多様な事業所や団体みなさんにつながり、地域の中でお互いが「支え合う」具体的な活動が一つでも多く生まれていけば、みんなが住みやすいまちになっていくのだと思います。

2021年度

さかい福祉と介護の実践発表会 抄録

発行

堺市 健康福祉局

長寿社会部 長寿支援課

〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3-1

TEL : 072-228-8347

FAX : 072-228-8918

E-mail : choshi@city.sakai.lg.jp

障害福祉部 障害支援課

〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3-1

TEL : 072-228-7411

FAX : 072-228-8918

E-mail : shoen@city.sakai.lg.jp